大切なお金を上手に使う力を育てよう！

このお金はどうやって手元に来たの?

今、子どもたちはネット社会にくらし、急速に普及した電子マネーやスマホ決済、クレジットカードなどの「見えないお金」に囲まれています。物に囲まれ不自由のない生活の中で、お金を手にすることの苦労を実感したり、物を大切にする気持ちを持つことが難しくなっているようです。

しっかりとした金銭感覚を身につけないまま大人になり消費者トラブルにまきこまれたり、多重債務に陥ることがないよう、子ども時代にお金との上手なつきあい方を身につけていくことが必要です。

まずは、経済生活の中でお金は欠かせないものであり色々な役目を果たしていること、そしてそのお金は大人が一生懸命働いて得たものだから大切に使わなくてはならないことを伝えましょう。一方で、命や健康、家族の愛情、友情等、お金では買えない大切なものがたくさんあることも伝えたいですね。

豆知識 電子マネーって?

電車やバスに乗る時や、コンビニでの支払い時などに現金を出さずに支払いができる電子マネー。お金の価値を電子データに変えてカードやスマホにチャージしたり、コンビニなどで希望する金額分のプリペイドカードを購入したりして使用します。

財布からお金を出すことがないため、子どもたちは支払ったという実感がないようです。時には一緒に現金で買い物したり、券売機でチャージさせてみたりして、お金の出入りを実感させるのも一案です。

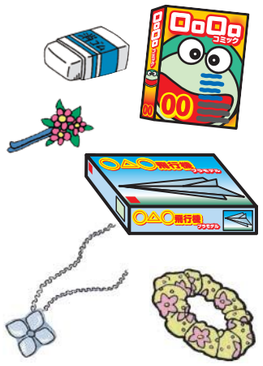
電子マネーではありませんが、クレジットカードも同様に、子どもにはお金の流れが見えません。「魔法のカード」ではなく後日まとめて口座から引き落とし（支払い）される仕組みであることを、請求明細書を一緒に見るなどして伝えましょう。

いつから・いくらから・どのように?

①いつから?

お金の役割（※）をだいたい理解でき、数の大小が分かるようになれば大丈夫。入学・誕生日などの節目のほか、自由に欲しいものを買いたいという気持ちが強くなってきた時でもいいでしょう。定期的に渡さなくても、お祭りの買い物を予算内でやりくりする、などの経験も貴重です。（※）最終ページ豆知識参照

②いくらから?



おこづかいの金額を決めることは難しいものです。他の家と比べるのではなく、「おこづかいでどこまでの買い物をするか」をまず親子で話し合い、そこから逆算した金額にするのも一つの方法です。

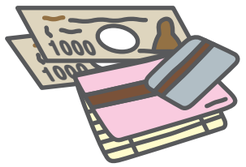
③報酬制?定額制?

お金は働いて稼ぐものということを伝えるため、お手伝いのおだちんや何かのご褒美としておこづかいを与える方法があります。子どもは苦労して得たお金を大切にします。しかし、家事労働は家族の一員として助け合うための当然の役割なのでおこづかいとは関係ないという考え方もあります。

一方、「毎月（毎週）○円」と渡す方法には、計画的にお金を使い管理できるという利点があります。ただしお金を稼ぐ大変さは実感しにくいかもしれません。

④臨時収入は?

親戚から高額のおこづかいやお年玉をもらった時は「銀行に預ける」ことを教えるチャンスです。自由に使う額と貯金する額を子どもと話し合い、一緒に金融機関に行き、子ども名義の口座に預けます。



大切なお金をくれた方には、子どもからお礼を言わせるのもお忘れなく。

おこづかいから学べること

①「欲しいもの」と「必要なもの」を仕分けする

お金には限りがあります。「欲しいままに買っていたら必要なものを買う時にお金が無かった」という苦い経験を通して、必要なものをまず優先して購入できるようになっていきます。

②計画的にやりくりする

「おこづかい帳」をつけることはお金の管理術を身に付ける第一歩です。おこづかいを渡す前に、前月（週）の使い方を親子でふり返り、ほめたり、助言したりする機会を持つとよいでしょう。買いたいものが高額な場合は毎月少しずつ積み立てるとよいことや、急な出費に備えておこづかいの一部を初めから貯金箱に入れる、なども徐々に教えてあげましょう。貯金箱に貯まった金額が大きくなったら、子ども名義の口座に貯金し、時々記帳すると利息の話につなげることもできます。

③買うものを吟味する、我慢する

大切なお金を上手に使うために、買う前に価格・購入先・品質などを比較できるようになれば上級者です。金額に見劣りすると思えば購入を見送り、欲しいと思うものに貯金が足りなければ代替品を考えたり、お金が貯まるまで我慢したりする力は「賢い消費者」に不可欠です。

相談事例から 金銭感覚が育たないまま成長すると・・・

ネットゲームでアイテム購入を繰り返し、高額の請求が来た

ゲーム内の通貨には名称や見た目の現実味が乏しいものも多いため、子どもと一緒に画面を見ながら確認し、有料アイテムの購入には現実のお金がかかることを伝えるのも一案です。あわせて、電子マネーやスマホ決済、クレジットカードの仕組みを教えましょう。

「簡単に儲かる」と誘われ投資の学習教材を買ったけれど、全く儲からない

お金は簡単に手に入らないことを伝え、買う前にそれが必要か、他と比べて価値あるものかを慎重に考える習慣をつけさせましょう。

借金がかさみ、多重債務に

お金が足りないときは買い物を我慢することや、計画的にお金を管理する経験をさせましょう。高学年になったら、消費者金融からの借金や銀行のキャッシング、クレジットカードのリボ払いなどは利息や手数料を上乗せして返済しなくてはいけないことも伝えていきましょう。

おこづかい教育に正解はありません。家庭の方針や子どもの性格、成長にあわせて渡し方を見直したり、親子でお金の話や消費生活の話をすることが大切です。